

平成24年度 第2回 成田市精神保健福祉推進協議会 会議録

1 開催日時 平成24年11月6日(火)

2 開催場所 成田市赤坂1丁目3-1 成田市保健福祉館 会議室1.2

3 出席者

(委員) 佐藤会長, 大根田委員, 山崎委員, 青木委員, 佐久間委員, 宇野委員, 笠松委員
石田委員, 橋本委員 (代理者徐幹事)

(委任状) 岡井委員, 小柳委員 (欠席) 太田委員

(幹事) 星野幹事, 潁川幹事, 山田幹事, 宮野幹事, 北村幹事, 松崎幹事
(事務局) 深山部長, 金崎課長, 窺主査, 谷下田主査, 藤江主事

4 議事(要旨)

議案第1号 平成24年度上半期事業経過報告について:承認

会長:「今回の協議会は、総会ということによろしいか」

「年間の内容は、今までと同じということの問題ないか」

経過報告であり、特に質問はなかった。

○議案2号 平成25年度事業計画(案)について:承認

・行事日程について

委員:「福祉まつりは他の行事と被らないよう、日程について配慮して頂きたい。」

・講演会について

会長:「精神保健福祉フォーラムについて、『専門職』を対象とあるが、ユーザーは対象にしなくていいのか?」

委員:「以前は精神障害への啓発が第一目的であったが、これからはユーザーに向けた何らかの発信をしていく時期ではないか。」

事務局:「フォーラムの対象、内容については幹事会などで、今後検討して頂きたい。」

委員:「より当事者の声が反映されるよう、希望する。」

会長:「フォーラムは専門職を対象とするものではあるが、今後その対象者に当事者家族を含め、内容を検討してはどうか。」

委員:「一般の方への啓発については、三障害への偏見が未だにあるのが実情であることから今後も理解をしてもらう啓発が必要だと思われる。」

委員:「精神疾患の発症は思春期以降若い時期が多いので、教育関係者と連携を図ることはできないか。栄町では中学生向けのパンフレットを配布していた。」

事務局:「メンタルヘルスフェアにて、テーマを工夫し、参加を促していきたい」

会長：「教育サイドについては、若年者の統合失調症を早期に発見する役目がある。教育機関との連携は検討したい。具体的には幹事会で議論したい。」

委員：「フォーラムは平日夜となると、ユーザー（当事者）側は参加しづらい。時間を見直し、平日昼間や、休日に開催することはできないか。」

事務局：「夕方からの講演会は今までは援助者側が参加しやすいよう平日夕方に開催。対象が変われば、時間も変更は可能。」

・広報活動について

会長：「『なりためんたるへるす』について。過去に刊行したものを閲覧することは可能か？」

事務局：「『めんたるへるす』のバックナンバーについては、成田市ホームページにて閲覧することが可能。」

会長：「バックナンバーをまとめ、冊子にしてどこかでみられるようにするのもいいかもしれない。」

○議案第3号 成田市の精神保健福祉の現状について

・他市との比較より

会長「入院の医療費について、他市で助成を行っているところがあるが、成田市で同制度を実施する予定はあるか。」

事務局：「地域移行・退院促進の観点から考えると、入院医療費の助成はむしろ入院を助長してしまう可能性があることから、本旨にそぐわないと考える。よって現時点で実施予定はない。成田市ではまだ実施している市が少ない、通院医療の助成を行っており、精神科ユーザーの社会復帰・地域密着を目標としている。」

委員：成田市で入院している人の数は分かるか？また通院している人の数は？」

委員：「保健所では6月30日現在の入院数なら統計がある。通院数については統計が無い。」

事務局：「自立支援医療の受給者数が一定の目安になるのではないか？」

委員：「H23年の財政状況について、成田市の障害福祉予算の中、精神保健への予算割合が『8.24%』とあるが、残りの91.76%が他2障害に使われているということか？」

事務局：「財政の割合については、精神保健福祉のみで予算計上しているものだけでなく、障害福祉全般で計上しているものが多い。その場合、人数比など按分で算出したが、どうしても人数が身障・知的を合わせた数の方が多い。また、施設利用者数が圧倒的に他2障害の方が多く、結果として比較すると少なく数字が出た。決して精神にお金を使っていないというわけではない。」

会長：「今後精神障害者向けの使いやすいサービスメニューを増やして、予算がつきやすいようにする必要がある。」

○報告（第二期成田市障がい福祉計画達成状況について）

会長：「施設入所者 1 1 2 人というのは、精神障害者数か？」

事務局：「3 障害合計した数となっている。」

事務局：「地域移行について。退院可能な精神障害者数が、県が人口比で算出した曖昧で客観性のない数値であった。別の客観的指標が必要となることから、第三期に目標数は設けていない。」

委員：「作成当時、千葉県も目標を計画にのせることで、その実現を目指して努力してきたのに、その目標が根拠のない数字であるというのは非常に残念だ。」

「今後相談支援を充実させ、地域生活への復帰を一層推進するよう、方針を転換していく必要がある。」

○委員からの提言について

委員：家族会として、内容を精査し、市長へ提言を行いたい。

5 傍聴者 1名

6 次回開催予定 平成 25 年 5 月